

平成 29 年度第 4 回（一社）日本生物物理学会理事会議事録  
日時：2018 年 2 月 17（土）12：30～16：50  
場所：大阪大学産業科学研究所・インキュベーション棟 1 階講義室  
東京大学工学部 3 号館 601 号室ほか（TV 会議）

出席者：理事総数 名 出席理事 名（代表理事を含む）

代表理事（会長）	神取 秀樹	理事（副会長）	高田 彰二
理事（副会長）	野地 博行	理事	石島 秋彦
理事	内橋 貴之	理事	大上 雅史
理事	須藤 雄気	理事	諏訪 牧子
理事	中井 孝尚	理事	西坂 崇之
理事	林 重彦	理事	宮田 真人
理事	渡邊 宙志		

監事総数 2 名 出席監事 2 名

監事 木寺 詔紀  
監事 七田 芳則

オブザーバー：

平成 31 年度年会実行委員長	永井 健治
関東支部長	由良 敬
中部支部長	廣明 秀一

陪席者：

会長室 神瀬 麻里子  
学会事務局 向井 牧子

議長：代表理事（会長） 神取 秀樹

議事録作成者： 理事 渡邊 宙志

審議および報告事項

報告事項：

1. 平成 30 年度年会準備状況（須藤）

: 報 1

2. 平成 31 年度年会準備状況（永井）
3. 年会における二国間シンポジウム（神取） : 報 3
4. 出版委員会報告（野地） : 報 4
5. 男女共同参画・若手支援委員会報告（高田） : 報 5
6. IUPAB・ABA 関連報告（野地）
7. 啓蒙活動報告（中井） : 報 7
8. 賞・助成金推薦委員会報告（高田） : 報 8
9. 地区報告
  - 関東（由良）
  - 中部（廣明）
- その他
10. テレビ会議について（神取）

**審議事項：**

1. 平成 30 年(2018 年)度事業計画（案）（野地） : 議 1
2. 平成 30 年(2018 年)度予算（案）（諏訪） : 議 2
3. 出版委員会関連議題（野地） : 議 3
4. 男女共同参画・若手支援関連議題（高田）
5. 滞納 3 年以上の会員の除籍と会員数の推移について（大上） : 議 5
6. 岡山年会における会員総会シンポジウムについて（神取） : 議 6

その他

**連絡事項：**

1. 次回理事会日程について（神取）

平成 29 年(2017 年)度第 5 回理事会

日時：平成 30 年 4 月 28 日（土）

場所：(TV 会議)

## 審議および報告事項

### 定足数の確認：

理事会の審議に先立ち、議長 神取 秀樹 氏より、定足数のご報告があった。

理事総数 17 名のうち出席者 13 名により過半数を超えた。

### 定款第三十二条（決議）

理事会の決議は、決議について特別な利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

### 報告事項：

1. 2018 年度(平成 30 年度)年会準備状況（須藤）：報 1

沈 建仁 実行委員長の代理として須藤 雄気 氏が 2018 年度の年会準備状況を報告した。

■ 年会のホームページが立ち上がったとの報告があった。

- ① 開催概要には現在大まかなスケジュールを掲載。今後日程等を載せていく予定である。
- ② 岡山大学津島キャンパスの案内と懇親会会場の岡山ロイヤルホテルへのリンクを掲載。
- ③ プログラムに関して、シンポジウム企画募集を締め切った。  
今後は採択されたシンポジウム企画を掲載。
- ④ 宿泊案内をオープンした。
  - キャンパスから徒歩圏内のホテルは 2 箇所しかなく、ホテルの混雑期と重なる。  
予約が取りづらい状況。
  - 岡山ロイヤルホテルの 500 室を確保した。
  - 5,200 円で朝食付き、ツインルームも 5,200 円。
  - 電話のみの受付価格であることに注意。
- ⑤ 2 月 19 日に問い合わせ先を掲載した。
- ⑥ 企業展示は集まってきているが、ランチョンセミナーをより集めたい。

■ 12 件の共催シンポジウムが開催決定した。

■ 一般シンポジウム

- 応募 2 件(スロット 36 件)があり全て採択した。  
☆ 会員率が 10%のもの。オーガナイザーすら会員でないシンポジウムもある。

■ 今年の変更点

非会員シンポジストの年会参加費は無料だが、懇親会費用の支払いは必要。

■ 年会計画の具体化に伴い予算の変更があった。

- 2,425 万円の収入

- ◇ 事前登録の正会員参加費 7,000 円（熊本年会と同額）
- ◇ 参加人数は熊本年会を参考にして算出
- ◇ 広告料、ランチョンセミナー等も順調
- ◇ 寄付金等も何件か集まってきている。
  - 岡山医学振興教育助成・コンベンション補助・託児サービス補助
- 支出は中西印刷・エーイー企画にそれぞれ見積もりを出してもらった。
  - ◇ 会場費は 2017 年の熊本年会と同程度。
    - 会場費は分単位で予約して削減しているが、男女共同参画企画の変更にともない今後増加するかもしれない。
  - ◇ 市民講演会は岡山大学学長に挨拶してもらう。
- 200 万円程度の黒字になる見込み。
- 今後、予算不足になる場合は参加費を値上げして対応していく。

## ■ 他の理事からの意見

- ① 岡山年会の参加費が安いのは、参加者にとってありがたいかもしれないが、次の年会の開催は民間の会場を利用するので参加費は高くなる。年会毎に参加費が大幅に異なるのは避けた方がよいという意見が出た。
  - 以前は学会負担の項目が年会担当になったものも多く、年会実行委員が苦慮している。
    - プログラム集印刷費、年会案内（紫ページ）印刷費などの項目
  - 学会からの年会への経済的補助（約 300 万円）を求める意見が出た。
    - ◇ 学会から年会への資金移動は税務上の問題はない。
    - ◇ 年によって（会場によって）は赤字を出してもよいという明確な前提があれば実行委員の負担は軽減される。
  - 以前は年会で黒字の場合は、各支部へのサポートに回していたので各支部の助力が期待できたが、現在、支部は切り離されており上記のサポートはなくなった。
  - 基本的には、参加費は大会実行委員会の決定するmatter。
  - 金沢、筑波、熊本年会は正会員の事前登録 7,000 円。
  - 長期的展望に立てば年会参加費は徐々に上げざるを得ない。
    - ◇ さらに今後の開催地、宮崎・群馬・仙台は今後、民間施設を利用するので、会場費がかかる。

近年、正会員参加費は 7,000 円に変動していないので、今年度も 7,000 円に設定することを確認した。ただし今後、各実行委員会に同額での実施を強いるものではないことを

確認した。

## 2. 平成 31 年度年会準備状況（永井）

2019 年度年会の準備状況について永井 健治 氏より報告があった。

- 3 月 12-13 日に現地に 4 名で出向いて、価格交渉、会場場所の交渉、高校 2 校を訪問し出前授業の打ち合わせを行う。
- 宮崎大学の水光 正仁 副学長とアポイントがとれたので、サポート依頼を含め打ち合わせを行う。
- 次回理事会にて報告予定。

## 3. 年会における二国間シンポジウム（神取） : 報 3

神取 秀樹 氏より年会における二国間シンポジウムについて説明があった。

■ 今まで五カ国（インド、中国、韓国、台湾、オーストラリア）との二国間シンポジウムを年会において開催している。

- 2017 年度、インド・台湾との二国間シンポジウムを熊本年会で開催、中国・韓国・オーストラリアとの二国間シンポジウムは先方で開催した。

■ 慣例として招待講演者の旅費は参加者が自弁し、滞在費は開催国が負担する。

■ 岡山年会において

- 中国：中国側の提案によりクライオ電顕のシンポジウム  
◇ 日本側のオーガナイザー 千田 俊哉 氏
- 韓国：二国間ではなく東アジア複数国による一分子の生物物理学シンポジウム  
◇ 日本側のオーガナイザー：佐甲 靖志 氏
- オーストラリア：今年度は先方で ABA を開催するので、2019 年に日本で二国間シンポジウムを開催する。
- インド：生物物理学会を 3 月に開催。二国間シンポジウムを開催するには時間がないので、今後の方針を先方の会長と協議中。
- 台湾：5 月に開催される生物物理学会で二国間シンポジウムを開催する。  
◇ 2017 年度の熊本年会に台湾の生物物理学会会長が来て挨拶した。  
➤ 今年度は会長の神取氏、南野 徹 氏、村田 武士 氏  
➤ シンポジウム「膜タンパク質のダイナミクス」が開催される。

■ 提示された今後の課題

- ホスト国になった際にどのようなテーマで誰が担当するかを会員に対して説明がつくように、透明性と公平性が求められる。  
◇ 先方の国のルールにも依存するので、人間関係に基づいた個別の対応となる。  
◇ 理事会が十分に把握、審議していく必要がある。先方で開催された二国間シ

ンポジウムについては、理事会に事後報告する。

◇ 講演者については、若手の起用を推奨していきたい。

- BPPB の宣伝が非常に重要。

#### 4. 出版委員会報告（野地） : 報 4

野地 博行 氏より出版委員会の報告があった。

##### ■ 邦文誌に関して

- ① 邦文誌：若手の海外だよりの執筆数が減ってきているので、今後、理事には紹介をお願いする。
- ② 邦文誌：内規再検討をする予定であったが WEB 上要綱を優先されることが判明したので、整備後に次回理事会で報告する。
- ③ メール審議は今までサイボウズを利用していたが、スラックを利用していくことに決定した。

##### ■ 欧文誌に関して

- ① 前回の理事会で議題となった CC-BY-NC-SA に関して、持ち帰り議論した結果がでた。【審議事項へ】
- ② 2018 年に入り投稿数ダウンロード数が減少。
  - 各理事に企画を出してもらう。
- ③ ホームページのデザイン案ができあがった。【審議事項へ】

#### 5. 男女共同参画・若手支援委員会報告（高田） : 報 5

高田 彰二 氏より男女共同参画・若手支援委員会の報告があった。

##### ■ 岡山年会の男女若手のシンポジウム枠が短いということで、3 日目のランチョンの時間に移動するということが報告された。

- 可能であれば3日目のポスターセッションの開始時間を遅らせる。
- 仮テーマは「若手とシニア間の世代間格差」

##### ■ キャリア支援シンポジウムは、昨年度と同様に株式会社アカリクに打診。

- 【審議】前年と同様に学会経費からランチョンセミナー80食の拠出をすることを決定した。

##### ■ 若手奨励賞と募集要項の文面確認を行った。

##### ■ 3月に開催される「女子中高生のための関西科学塾」から参加賞の協力依頼があった。

- 全員に配布するには80セット必要。
- 例年クリアファイルを配布していた。
- 「一家に一枚ポスター」とクリアファイルを提供することを決定した。

- クリアファイルの在庫が少ない。

クリアファイルに関しては、前回と同じデザインのものを作成し対応する。時間的に間に合わない場合は、「一家に一枚ポスター」のみとすることに決定した。

【審議】クリアファイルを何部発注するか？

- 100 枚の作成は単価が高くなる。総額 21,300 円（単価 213 円）
- 500 枚の作成は総額 33,400 円（単価 66 円）
- 1000 枚の場合は 総額 43,600 円（単価 43 円）
- 納期は枚数に依らず 7 日

【審議】前回のデザイン（アインシュタイン）で 1000 枚作成することが決定した。

## 6. IUPAB・ABA 関連報告（野地）

野地 博行 氏より ABA に関する報告があった。

- 3年に1度のABAが2018年12月2-6日にメルボルンで開催される
  - 慣例では所属各国のコミュニティに推薦を求めるはずだが、今回は打診がなかった。

## 7. 啓蒙活動報告（中井） : 報 7

中井 孝尚 氏より啓蒙活動に関する報告があった。

- 出張授業に関する新規の依頼は来ていない。
- 前回の理事会後、神取 秀樹 氏と高橋 賢 氏が新たに出張授業を行った。

神取氏からの報告

- 当初は出張授業とは違った形で名古屋の東邦高校から講義のオファーがあったが、生物物理学会の啓蒙企画として申請してもらった。
- 12月18日に名古屋の東邦高校の学生が名古屋工業大学に来て講義を受けた。
- 30名の学生に対して1時間ほど講義を行い、研究室の見学を行った。
- それ以降の相談や依頼は来ていないので、今後、理事に呼びかけをお願いする。

## 8. 賞・助成金推薦委員会報告（高田） : 報 8

高田 彰二 氏より賞・助成金推薦に関する報告があった。

- ① 生物物理学会が推薦した坂内 博子 氏が第14回日本学術振興会を受賞した。
  - 学会員である古寺 哲幸 氏と久原 篤 氏も同賞を受賞した。
- ② 江崎玲於奈賞の3月9日が締め切り迫っているので、生物物理学会として推薦候補者を募集している。
  - 過去の受賞者を見るとナノテクの技術的な仕事を受賞対象になっている。
    - ◇ 金沢大学の安藤 敏夫 氏が前回、最終選考まで残ったので今回も十分に可能

性があるのではないかという意見が出た。

➤ 今年度は同賞への推薦を安藤 敏夫 氏に打診することに決定した。

## 9. 地区報告

### 関東（由良）

由良 敬 氏より関東支部の活動について報告があった。

- 3月13-14日に東京大学駒場キャンパスで支部会を開催する旨の報告があった。
  - 現在42件の発表の申し込みがあり、100名程度の参加者を見込んでいる。
- 2020年の年会の準備状況に関する報告があった。
  - 2020年の年会を場所は群馬コンベンションセンターで仮予約した。センターの工事は順調に進行している。
  - 2020年9月15-18日

### 中部（廣明）

廣明 秀一 氏より中部支部の活動について報告があった。

- 3月5日に名古屋大学で支部会実施予定
  - 現在、口頭発表21件、ポスター発表28件、事前参加登録者65名
  - 80名程度の参加者を見込んでいる。
- 名古屋大学の藤吉 好則 氏がホストとなり3月16日にリチャードヘンダーソン氏の講演会を実施予定している。

### 中国・四国（須藤）

須藤 雄気 氏より中国・四国支部の活動について、支部長永野 真吾 氏に代わり報告があった。

- 5月19-20日に高知大学で支部会実施する予定。
  - 山田 和彦 氏が実行委員長。
  - 参加人数は毎年少しずつ増えている。
  - 前年度より学生発表賞を設立し英語で講演。
  - 懇親会は路面電車の中で実施。

### その他

## 10. テレビ会議について（神取）

神取 秀樹 氏よりテレビ会議システムについて報告があった。

- 現在、神瀬 氏に調査を依頼している。
- 今度の4月までは阪大の産研にライフサイズクラウドのシステムを利用させてもらう。



- 今後に関しては現在2つの選択肢がある。

【選択肢1】現在のシステムと同等のシステムを導入する。

- 初期費用が5万円、年会30万円かかる。
  - ◇ 直接会議にした場合、旅費は年間100万円かかる。

【選択肢2】中西印刷に同じシステムをいれてもらい、他学会と共有する。

- 参加する学会が増えれば、費用が抑えられる見込み。
- 現在、中西印刷が関わる学会で乗り気のところは少ない。
  - ◇ 現在の状況では一回の利用に4、5万かかる。
  - ◇ 年3回利用

### 審議事項：

#### 1. 平成30年度事業計画（案）（野地）：議1

野地 博行 氏より平成30年度事業計画案について報告があった。

- 例年の活動に基づき平成30年度事業計画案が提示され、以下の各項目に関して審議・承認が行われた。

- ① 学術誌・学術図書の発行
- ② 研究発表会の開催
- ③ 人材育成
- ④ 研究業績の奨励と表彰
- ⑤ 関連学術団体との連携協力
- ⑥ 国際的研究協力の推進
- ⑦ 普及啓蒙活動
- ⑧ 理事会、総会等

#### 2. 平成30年度予算（案）（諏訪）：議2

諏訪 牧子 氏より平成30年度予算案について報告および審議があった。

- 年会関連の予算は現地実行委員の試算を提示。
- 今回の理事会での議論をもとに、4月の理事会にて予算を決定する。
- 去年との主な変更点や注意点。
  - ① ホームページ管理費（リニューアル費用）
    - 今後の理事会の内容を受けて変更する可能性あり。
  - ② 理事会費
    - テレビ会議システムの導入状況により変動。
  - ③ 和文誌刊行
    - バイオアーカイブの予算が承認されれば、変動する可能性あり。

- 全体としてわずかに赤字となっている。(例年最終的には黒字になる)
- 4月まで細かい要望があれば受け付ける。
- 他の理事より年会への300万円程度の補助の要望があった。
  - 補助の是非とは別に予算上は可能であるとの見解が示された。
- 科研費が通れば、その際に収入と支出に反映される。

### 3. 出版委員会関連議題 (野地) : 議3

野地 博行 氏より出版委員会関連議題について審議を行った。

- ホームページのリニューアルに関してデザインの原案が示された。
  - 新デザインのコンセプト
    - ◇ シンプルに見やすく。
    - ◇ スマホ・タブレットに対応。
    - ◇ 学会誌のページと連動して改定する。
    - ◇ 広告を見やすい場所に設置。
  - 新デザインに対する出版委員会での意見
    - ◇ 「邦文誌・欧文誌のページが見づらいのでは？」という懸念が示された。
    - ◇ 年会ページへのリンクへアクセスしづらいという懸念が示された。
      - 印刷すると見づらさがパソコン上では問題ないという意見もあった。
  - 費用対効果(100万円)に見合う修正なのか疑問が上がった。
    - スマホ・タブレットへの対応への修正が費用の大半を占めるとの認識が示された。
  - これらの点を確認しながら、今後、修正を行う。

【審議】 デザインの大まかな方向性が承認された。

- クリエイティブコモンライセンスに関して
  - 以前、出版委員会においてBPPB誌にCC-BY-NC-SAを付与する決定がなされたが、前回の理事会においてNCが付いている場合、企業関係者が論文投稿をためらうのではないかという意見が出た。
  - BPPB編集委員会に差し戻して議論したが、NCがついていても許可を得れば企業も利用可能であるので、NC付与で問題ないという結論に達した。
    - ◇ NCの定義は「非営利的であれば特別な手続きなく使用可能を意味する」であると確認した。
    - ◇ 営利目的のために利用申請があった場合のルールづくりが必要となる。

【審議】 BPPB誌にCC-BY-NC-SAを付与することが承認された。

## ■ BPPB 誌の bioRxiv との連動について

これまでの理事会での審議において、BPPB と bioRxiv との連動について原則承認してきた。

- BPPB の投稿規定に bioRxiv への preprint の掲載を認める一文を追加するにはコールスプリングハーバーラボラトリ社 1000 ドル(10 万)毎年負担する必要がある。
- bioRxiv への登録は B2J タイプを検討
  - ◇ B2J タイプとは bioRxiv に掲載後、ワンクリックで学術誌(BPPB)へ投稿が可能となるシステムを利用する制度。
  - ◇ bioRxiv へ登録するとプルダウンリストに雑誌名が載るので、宣伝効果が期待できるのではないかという意見がでた。
  - ◇ プルダウンリストの雑誌数は非常に多く、埋もれる可能性も否定できない。
  - ◇ 試用期間として5年間程度登録して様子をみたいという意見があった。
- bioRxiv との交渉窓口として早稲田大学の伊藤 悦朗 氏が推薦された。
- bioRxiv から BPPB へ投稿する際、原稿のスタイルがどうなるかという疑問が挙がった。
  - ◇ 中西印刷に負担がかかり、その結果として追加費用が発生する懸念が示された。
    1. 実際には投稿者は、最初に投稿する雑誌のフォーマットで bioRxiv に登録しそのまま投稿する。
    2. その後、別の雑誌に投稿する場合、査読の段階では最初に投稿した雑誌のフォーマットを進めることができる。
    3. その後、アクセプトが近づいた際に雑誌の要請に応じてフォーマットを修正する。
  - ◇ 中西印刷に特別に負担が発生するという事はない。

【審議】 BPPB 誌の bioRxiv との連動が改めて承認された。

## 4. 男女共同参画・若手支援関連議題（高田） : 議 4

報告 5 において同時に審議されたので割愛する。

## 5. 滞納 3 年以上の会員の除籍と会員数の推移について（大上） : 議 5

- 2008 年を境に会員数が減少傾向にあり、2017 年で 3200 名程度の会員数である。
  - 会費を 3 年滞納すると除籍される規則
    - ◇ 除籍候補者は 220 名。除籍になり再入会することは可能。その際、滞納会費を払っていない現状。
  - 会員数を維持するためには、会員であることのメリットを明確にする必要があると

いう意見が出た。

- ◇ 一般演題は会員でなければ発表できない。
- ◇ 学会誌は現在、誰でもアクセス可能。
  - 過去に難波会長のもとで生物物理とは何かを幅広く周知するという長期的展望に基づきオープンアクセスに踏み切った経緯がある。
  - オープンアクセスにした際は冊子体がまだ存在していたので、会員のメリットは存在した。
  - 冊子体が廃止されるときに、会員のメリットに関する議論に結論が出ないまま話が進んだ経緯がある。
- ◇ 年会シンポジウムは、非会員も企画可能。
- ◇ 会員に申請中でも発表可能であり、発表後会費を払わないということもある。
- ◇ 他学会の中にはアブストラクトは会員でなければ見られないところもある。
- 現在の会員のメリット
  - ◇ 学会誌の企画
  - ◇ 年会での通常の発表
    - 現在、年会費未納の人には参加証を郵送していないが、会費未納のまま申し込みをして発表している。
    - 参加証のチェックを厳しくすべきとの意見が出た。
  - ◇ 近年、シンポジウムの比率が増加したために、非会員でも発表する機会が多く与えられている。

#### 【理事からの意見】

- ホームページに会員のログインページにおいて会員へのサービス提供を充実させる。
  - ◇ かつてもそういう議論があったが、その経緯と結論は不明。
- 邦文誌を非会員には部分公開にしてはどうか。
- 学会に所属しているというアイデンティティを若い会員を中心に与えることが必要。
  - ◇ 分科会等を作って所属してもらおう。
  - ◇ 物理的に近い支部会以上に分野的に近いグループでの研究会の開催。
- 主な会員の減少理由を明確化すべき。
  - ◇ 学生会員の数はあまり変化していないが、正会員の減少がみられる。
  - ◇ 最大の退会理由は、退官（教員）・就職（学生）とみられる。
    - これらが退会の理由であれば会員数の減少を止められないのではないか。
  - ◇ 他学会も似たような状況で会員数が減少している。

➤ 分子生物が 76% (2005 年比)

- 英語化によって議論が盛り上がりなくなってきたという声を聞くことが多い。
  - ◇ 支部会が日本語での議論の受け皿となってきている。ただし支部会参加要件には学会員であることが含まれていない。

今後、会長・副会長らが包括的な方針を話し合いながら、審議を継続していく。

6. 岡山年会における会員総会シンポジウムについて (神取) : 議 6

法人化前は会員が参加する総会 (会員総会) において予算等を審議・議決していたが、法人化後は、代議員が参加する社員総会で議決することになり、会員総会に議決機能がなくなった。現在は、会員総会で学会の活動を報告した後、総会シンポジウムを行っている。

- 基本的には理事会がオーガナイザーとなって実施している。
  - ◇ 昨年のテーマ「国際連携と IUPAB」
- 岡山の場合は、1 時半より神取会長が市民講演会へ出席する。
  - ◇ 理事会がオーガナイザーなので、代わりに他の理事に世話人を担当してもらう必要がある。
- 「BPPB の問題」と「生物物理学とは何か？」などのテーマが提案された。

次回理事会で継続審議する。

その他

分野別専門委員会について (野地)

今までの分野別委員会における分野の増減の現状の再確認が行われた。

- ◇ 今年度の分野別専門委員を 2018 年 1 月 1 日付で任命している。
- 前回の理事会において、会員から寄せられた新しい分野を採用するかの議論が行われた。
  - ◇ 分野を増やすことに対する懸念が示された。
  - ◇ 増やすのは簡単だが、減らすのは難しいために、増加の一途をたどっている。
  - ◇ 分野別専門委員会の位置付けが明確でない。

■ 今までの分野別委員会における分野の増減の現状の再確認

【役割】

1. 年会のときに弁当を提供し、理事会での活動のサマリーを聞いてもらう。
2. 生物物理に対する一般からの質問に答えてもらう。
3. 年会のときの発表スロットの分類の際に利用していた。
4. 理事の選出の際、分野の偏りを防ぐのに用いられたりする。

## 【設立経緯】

1990 年ごろに理由は総会に出てくる人が非常に少なかったので、郷 信広 会長の時期にできるだけ多くの人携わるような仕組みを作りたいとして発足。

☆ 今は会員総会になったので、本来の役割は終了している。

## 【理事からの意見】

- 実質問題、分野の整理・削減作業は不可能。
- 一旦廃止してみるという案が出た。
  - ▶ 弁当代の削減と整理する契機をつくることできる。
- 若い人材を発掘するという意味合いで存続させてもいいのではないか？
- 新しいキーワードが増えてくるというのは、生物物理学会の性質上必然であり、あるべき。
- 似たキーワードをマージする仕組みがあってもよい。
- 一般の企業の役職停止のように年齢を制限して若手を発掘する制度としてもよいのではないか？
- 年会で演題登録するときにもっと活用できる。
- 委員として推薦されるスロットがあった場合、登録数が少ない分野を自動的に削除する仕組みを作れないか。

各理事が自分の分野に関して個別案を野地氏に打診して、野地氏が取りまとめることになった。

## 連絡事項：

次回理事会日程について

2017 年度（平成 29 年度）第 5 回理事会

日時：2018 年 4 月 28 日（12:30～）

場所：大阪大学産業科学研究所・インキュベーション棟 1 階講義室

東京大学工学部 3 号館 601 号室ほか（TV 会議）

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は 16:50 に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成 30 年 4 月 2 日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成 29 年度第 4 回理事会

代表理事 神 取 秀 樹

監事 木 寺 詔 紀

監事 七 田 芳 則